理　　科

理科の目指す生徒像

- 自分の意見や考えをはっきり伝えることのできる生徒
- 観察・実験の結果を分析・解釈し、表現できる生徒
- 実体験に基づいた確かな学力を身に付けた生徒

授業評価における課題

どの生徒も、授業に対して前向きに集中して取り組むことができている。

しかし、結果を考察することや、自分の考えや意見を発言することが苦手な生徒が多く、積極的に発言したり質問したりする生徒は限られている。

観察・実験の結果を十分に考察するための時間の確保や系統的な指導が必要である。

学力調査における課題

４観点とも全国平均を下回っている学年と全国平均を上回っている学年がある。

全体的には、基礎的事項を定着させる取組が必要である。特に、小学校での基礎的事項を補うことが必要な生徒もいる。

十分に理解している生徒には、応用力を身に付けさせたり、考える力を定着させたりする取組を充実させる必要がある。

言語活動における課題

○ 観察・実験には興味を示すが、結果をまとめて表現するといった言語活動に対しては苦手意識をもっている。
○ 観察・実験の結果を考察し、自分の考えを説明する力を高めることが課題である。

≪本校で検討した言語活動例≫

仮説や検証方法について討論しながら考えを深め合うことや、観察・実験の方法を検討し合う活動

改善策 ①

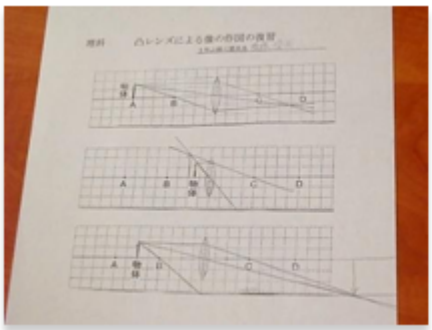
ワークシートを工夫したり、問題演習の時間を確保したりして、基礎学力の定着を図る。

改善策 ②

観察・実験を充実させ、結果を分析したり、表現したりするような授業を展開する。

改善策 ③

課題解決型の授業を取り入れ、学び合いのある学習活動を展開する。



～ 研 究 の 成 果 ～

- 観察・実験の結果から、規則性や自分の考えを表現しようとする生徒が増えてきた。
- 問題演習の時間を多くとることによって、基礎学力が定着してきた。
- 課題解決型の授業展開を行うことで、生徒相互の話合いが円滑にできるようになった。